

IOI 2007 クロアチア大会 参加報告

日本代表団 団長 谷 聖一*

1 はじめに

第 19 回国際情報オリンピック (International Olympiad Informatics) は, 2007 年 8 月 15 日より 8 月 22 日までクロアチア国ザグレブ市で開催された. 77 ヶ国・地域から 285 名の選手が競技に参加した. 金メダルは 25 名, 銀メダルは 48 名, 銅メダルは 69 名に授与された.

日本選手団の構成は以下の通りである.

選手	奥田 遼介 (一関工業高等専門学校・3 年)
	片岡 俊基 (高田高等学校・3 年)
	松元 叡一 (筑波大学附属駒場高等学校・2 年)
	吉田 雄紀 (灘高等学校・3 年)
役員	団長: 谷 聖一 (日本大学・教授)
	副団長: 伊藤哲史 (京都大学大学院理学研究科・助教)
	随行役員: 原 正雄 (東海大学理学部・准教授)
	随行役員: 伊藤剛志 (国立情報学研究所・特任研究員)

他に, 諸外国の情報教育への取り組みを調査するために (独) 科学技術振興機構 (JST) 主任調査員のラオちぐさ氏がまた, JST が科学技術振興を目的に CS で放送しているサイエンスチャンネルの番組を製作するためにテレビクルーが日本選手団に同行した.

1 位は Tomasz Kulczyński 君 (ポーランド), 2 位は Yi Yang 君 (中国), 3 位は Hua-yang Guo 君 (中国) であった. また, 4 位には 地元クロアチアの Goran Žužić 君が入り, 5 位は John Pardon 君 (米国) であった. 日本選手は, 片岡君が金メダルを, 吉田君が銀メダルを, 松元君が銅メダルを獲得し, 奥田君も惜しくもメダルに届かなかったものの健闘をした. 詳しい結果は <http://ioi2007.hsin.hr/index.php?page=results> で閲覧できる.

この報告書では, IOI2007 クロアチア大会の運営および IOI2007 における日本選手団の活動を報告する. 第 2 節では, IOI2007 クロアチア大会の大会運営を紹介する. 第 3 節で日本選手団の活動を総会 (General Assembly meeting) の参加記録を含めた形で紹介する. また, 今後の日本選手団が IOI において他国選手団と円滑に交流できるように, 他国選手団との交流の様子も記録し

* 日本大学・文理学部 教授

た。また、選手と役員は隔離されている期間も多く、選手の様子を詳しく記述できないが、役員の活動記録を通して多くの人に IOI の雰囲気伝わると幸いである。

2 大会運営

この節では、大会役員、大会スポンサー、大会施設（会場・宿舎）、試験実施システム、移動について報告する。課題の選定、試験の実施、採点、エクスカージョン、開会式、閉会式については、時系列にそって第 3 節の中で触れることにする。

2.1 大会役員

大会は国際委員会と開催国組織委員会により運営される。ここでは、各種委員会の構成を紹介する。

IOI 委員会

IOI President

Mr. Zide Du, China (2005 年選出)

国際委員会 (International Committee)

Dr. Krzysztof Diks, Poland (IOI2005 開催国)

Arturo Cepeda, Mexico (Host IOI2006 開催国)

Ivo Separovic, Croatia (Host IOI2007 開催国)

Yasser M. Abdel Ghany, Egypt (Host IOI2008 開催国)

Krassimir Manev, Bulgaria (IOI2009 開催国)

Troy Vasiga, Canada (IOI2010 開催国)

Ricardo Anido, Brazil (選挙により選出)

Richard Forster, Great Britain (選挙により選出)

Valentina Dagiene, Lithuania (選挙により選出)

Eljakim Schrijvers, Netherlands (選挙により選出)

Executive Director

Jari Koivisto, Finland

国際科学委員会 (International Science Committee)

Cesar Cepeda, Mexico (IOI2006 SC 議長, ISC 議長)

Bojan Antolovic, Croatia (IOI2007 SC 議長)

Zvonimir Bujanovic, Croatia (IOI2007 SC 副議長)

Lovro Puzar, Croatia (IOI2007 SC)

Ossama Ismail, Egypt (IOI2008 SC 議長)

Gordon Cormack, Canada (選挙により選出)

Tom Verhoeff, Netherlands (選挙により選出)

Mikhal Forisek, Slovakia (選挙により選出)
国際技術作業グループ (International Technical Working Group)
Martin Mares, Czech Republic (ITWG 議長)

IOI 2007 開催国委員会

名誉委員会 (Honorary Committee)

prof. dr. sc. Dragan Primorac, 科学教育スポーツ大臣
Milan Bandić, Zagreb 市長
prof. dr. sc. Ante Markotić, CCOC 理事長
Mladen Glasenhardt, CITS 理事長
Academic Leo Budin, 電気工学コンピュータ学部
prof. dr. sc. Vedran Mornar, 電気工学コンピュータ学部学部長
prof. dr. sc. Goran Muić, 理学部学部長
Ivica Mudrinić, T-Hrvatski Telekom 社長
Darinko Bago, KONCAR 社長

開催国組織委員会 (Host Organizing Committee)

Alen Spiegl, クロアチア情報処理学会会長
Jadranko Ahel, Koncár ICT 副社長
Zdravko Galić, クロアチア大統領府
Ivo Šeparovic, クロアチア情報処理学会, 実行委員長
Želimir Janjić・Zoran Paldi, 科学教育スポーツ省
Tihomir Tonković, ザグレブ市
Damir Bošnjak, T-Hrvatski Telekom
Marko Furić, CARNet
Hrvoje Vrhovski, クロアチア技術連絡会 (Croatian Community of Technological Culture)
Goran Horak, 電気工学コンピュータ学部
Zvonimir Bujanović, ザグレブ大学数学科
Miroslav Sakač, 学生センター (Student Centre)

実行委員会 (Executive Committee)

委員長 Ivo Šeparovic
委員長補佐 Krešimir Malnar
委員長顧問 Borut Pavlić
GA 議長 Tomislav Vujec

他に以下の役職や小委員会が置かれていた。

技術委員会 (Technical Committee)
科学委員会 (Scientific Committee)
採点委員会 (Evaluation Committee)

Editorial Manager

Technical Editor

Administration

Webmasters

名誉委員会には大臣や市長，また，メインスポンサーの社長が名を連ね，開催国組織委員会は，政府，市，学会，メインスポンサーの IOI 担当責任者で構成されることから，官・産・学が一体となった体制が構築されていたのではないかとと思われる．実際，入国審査の際の係官の対応や警察による会場の警備・移動時の先導などから，政府・地方自治体の協力を感じた．

2.2 大会スポンサー

この項では，大会スポンサーを紹介する．

名誉支援者 (Honorary Patron)

クロアチア大統領 Mr. Stjepan Mesić

後援

クロアチア科学教育スポーツ省

ザグレブ市

クロアチア技術連絡会 (Croatian Community of Technological Culture)

総合スポンサー (General Sponsor)

KONČAR ICT

メインスポンサー (Main Sponsor)

T-Hrvatski Telekom

CISCO

WOLFRAM Research

ブロンズスポンサー (Bronze Sponsor)

Croatian Information Technology

ERICSSON

KSU Company

VIDI

OMEGA Software

スポンサー

REDHAT

KING ICT

CARNet

Croatian Exporters

Croatian National Tourist Board

MEGATREND
RETEL
FINA
INFOSISTEM
PERPETUUM MOBILE
TURISTIČKA ZAJEDNICA GRADA ZAGREBA
PLIVA
MICRO-LINK
PHILIPS
ORACLE
VEUS / BIT 9
HEP, d.o.o.
DRVOTEHNA HUSNJAK
WATCHENTAR d.o.o.

2.3 大会施設

2.3.1 宿泊施設

選手，各国選手団役員とも宿泊は，Student Dormitory Stjepan Radić という学生寮であった．5号館が選手用，6号館が役員用と区別されていた．また，メインビルディングに，事務局，食堂（2カ所），GA 会議場，翻訳室（Translation Room），売店，カフェなどが配置されていた．これらの施設が一つの建物に集約されていたため，大変便利であった．食事は，ビュッフェ形式で提供され，学生寮の食堂であるのでおいしいといえるものではなかったが，毎回十分な量と種類の食事が用意されており問題は感じられなかった．売店では，軽食，飲料，日用品が廉価に販売されていた．IOI で使用する建物の入り口には，警官が警備のため 24 時間常駐していた．

敷地のすぐ側にトラム（路面電車）の駅やちょっとした商店街もあった．その駅から市の中心地まではトラムで約 15 分で，大会期間中は IOI 2007 の ID カードを提示すれば，市内の公共交通機関は無料で利用できたため，各国選手団は自由時間に市内にでかけることができた．一方，大会公式行事の移動については問題点も多かった．このことは「移動」の項で触れる．

部屋は 2 人部屋で，また，隣接する 2 つの部屋の間には共同のバス・トイレが配置されていた．各部屋に机とベッドが 2 つずつ設置されており，インターネットへの接続環境も提供されていた．もちろん隔離期間はネットワークサービスは停止する．

大会 5 日目までは，翻訳ルームが利用可能であった．翻訳ルームには，参加国分の PC およびネットワークプリンターが設置されていた．基本的に各国 1 台の PC を利用するという形態であった．ただし，試験終了後の確認実行の際は時間帯を 2 つに分け，各国が複数の PC を利用できるように配慮されていた．隔離期間以外は，インターネットに接続することも可能であった．また，無

線 LAN も用意されていたが、安定せず、日本選手団は持参した PC で翻訳作業を行い、印刷する場合は、USB メモリ で用意された PC にデータをコピーをし、そこから印刷を行った。翻訳ルームは、大会 6 日目には PC などが撤去され、その後はパーティ会場になった。

他に、VIP 用の宿舎として、別の学生寮が利用されていたが、そちらの様子は窺い知れない。

2.3.2 試験会場・開会式閉会式会場

試験会場および開会式閉会式会場は、宿舎からバスで 20 分ほどの Zagrab Fair という見本市会場が利用された。試験会場は Pavilion 8 と呼ばれる建物で、仕切りのない一部屋に全参加者分の PC が並べられていた。約 300 台の PC が並べられた様子は壮観であった。参加者はこの PC で解答を作成し、Web 経由で提出サーバに解答を提出する。提出の状況や問題によって利用できる評価サーバでの実行結果にも Web 経由でアクセスできるが、提出サーバや評価サーバなどの試験実施サーバの設置場所は不明である。

2.4 試験実施システム

最初に、競技規則の「競技サーバ」の項を引用しておく。

IOI 競技は分散環境で実施される。各選手は開発とテストを行う個別のワークステーションが与えられる。採点および評価は、選手のワークステーションと同様の実行環境を有する競技サーバ上で実施される。各選手のワークステーションには、Linux だけがインストールされている。ソフトウェア開発環境も利用可能である。これらのツールは競技課題の解答プログラムを開発するのに利用する。ワークステーション上で、プログラムを編集、コンパイル、実行する回数に制限はない。ワークステーションは、競技サーバ、ドキュメントを提供する Web サーバ、課題に関連するデータ、印刷・テスト実行・解答の提出などの機能にネットワーク経由でアクセスできる。競技サーバが提供する機能については、この競技規則とは別のドキュメントに記述されている。このドキュメントと競技規則はどちらも競技サーバ上で利用できる。ワークステーションから、相互に通信することはできないし、インターネットにアクセスすることはできない。他の競技者のコンピュータやインターネットへアクセスしようとする、不正とみなされる。URL を変更してサーバを調べるなどの競技サーバを破ろうとする試みも不正とみなされる。

印刷 (Printing) 省略

提出インタフェース (SUBMIT Interface) 選手は Web ブラウザを通して競技サーバに解答を提出する。解答を提出する際、選手は課題と(必要に応じて)プログラミング言語を選択する。競技システムはファイル拡張子からプログラミング言語を自動判定するオプションも備えている。課題の解答はいつでも提出できる。選手が同じ課題に対して複数の解答を提出した場合は、それらの中の 1 つを採点されるアクティブな提出 (active submission) として選ぶことができる。デフォルトでは、最後に受理された提出解答が

アクティブとなる。出力ファイルを提出する課題では、選手は各出力を個別に提出しないとならない。提出された出力ごとにフォーマットが確認され、フォーマットが正しい場合のみ採点のために受理される。解答としてプログラムが要求される課題では、C, C++, Pascal プログラムを提出することができる。プログラムが提出されると、提出システムはプログラムが正しくコンパイルでき、プログラムサイズとコンパイル時間の制限を満たすことを確認する。引き続き、提出機能は課題記述中の入力例に対して実行時の制約を課してプログラムを実行し、選手に実行結果を報告する。提出されたソースプログラムは、100KB 未満であること、また、採点サーバが 30 秒未満でコンパイルできることが要求される。この条件を満たさない提出されたプログラムは、提出システムから拒否され、選手に通知される。課題ごとの提出回数の上限は 50 回である。提出された解答は、コンパイルが（コンパイルエラーがなく）成功した場合にのみ採点に適するとみなされ受理される。提出された解答は、課題記述中の入力例に対して実行した際に、正解を出力しない場合や 計算資源の制限を満たさない場合でも、受理されることに注意せよ。

テストインタフェース (TEST Interface) 競技サーバでは Linux が動作しており、メモリと時間を制限し、選手のプログラムに入力データを提示し、結果を捕捉する。解答としてプログラムを要求されている課題に対しては、選手はテストインタフェース (TEST Interface) を通して評価環境上で自分のプログラムを実行できる。この機能を利用するには、選手は入力ファイルをこのインタフェースに渡す。テストインタフェースは、各課題ごとの計算資源の制約に従いプログラムをコンパイルし実行する。(標準エラー出力を含む) 画面表示の最初の 100KB, 出力ファイルの内容, 実行時間, 適切なエラーメッセージが表示される。選手は、どの時点においても高々 1 つのテストを実行できる。テストインタフェース (TEST Interface) を使うと、選手は、コンパイルオプション, 時間とメモリの制限なども含めた評価環境において自分のプログラムがどのような振舞をするか知ることができる。各競技日ともに、競技時間の最後の 30 分間はテストインタフェース (TEST Interface) を使用できない。提出する入力ファイルは 2MB を越えてはならない。しかしながら、選手は bzip2 を利用して入力ファイルを圧縮することができる(例えば、シェルの中で、`bzip2 -k input_file` を実行する)。テスト実行システムは、課題ごとの計算資源の制約に従い Linux 上でプログラムを実行する。標準出力の最初の 100KB, 実行時間, エラーメッセージが表示される。

このように、Web ブラウザから利用できる提出インタフェース、テストインタフェースが用意されていた。これらのシステムは、クロアチアのオンラインコンテスト <http://evaluator.hsin.hr/> で使われているシステムが基礎となっている。7月23日よりこのオンラインコンテストシステム上でプラクティスを実施されたので、参加者は事前に実際の大会で使われるインタフェースに慣れることができた。また、参加者以外の人誰でも参加できるオンライン IOI もこのオンラインコンテストシステム上で実施された。(問題は IOI2007 と同一であるが、開始時間は IOI の 1 時間遅

れであった。)日本からも興味がある人や、残念ながら選手になれなかった合宿参加者などが参加していた。

実際に IOI2007 で用いられた試験実施システムは、このオンラインコンテストシステムと同一のソフトウェアを用いていたが、ハードウェアは IOI2007 専用のものが別に用意されていた。(目で確かめたわけではなく、そういう通知を受け取った。)

この大会では、確認実行期間に翻訳室の PC から評価システムに一時的に接続できるようになっていた。そのため、試験会場まで行くことなく翻訳室で確認実行を行うことができた。前年のメキシコ大会では、確認実行をするために試験会場まで移動しなければならなかったのが改善された。

試験問題の準備同様、試験実施システムの準備の質は非常に高いものであった。

2.5 移動

宿舎と試験会場・開会式閉会式会場への移動は、2 台のバスでのピストン輸送であった。プラクティスや開会式・閉会式の際は当然数回ピストン輸送するわけであるが、選手だけが移動する試験の日も一度では輸送できず、1 回目の試験では、2 巡目の移動に回った選手達は試験開始直前に会場に到着し、少し混乱もあったようである。日本選手も 2 巡目の移動であったが、各自が落ち着いて行動したことで問題は生じなかった。2 回目の試験では、公正を期するため 1 巡目で移動した参加者は 2 巡目のバスが到着するまで会場入口で待機させられ、それはそれでまた少し混乱したようである。

また、エクスカージョンやディナーのスケジュールもなかり無理のあるものであった。これらについては、次節「日本選手団の活動記録」の時間を見てももらえれば理解していただけるものと思う。

ただし、長距離の移動の際には警察車両が全行程先導するなどセキュリティ面では十分な配慮がなされており、また、夕方の渋滞時などは一般車両を規制して IOI 関係車両を優先して移動させるなどの措置が取られていた。

3 日本選手団の活動記録

8月13日

成田エアポートレストハウスにおいて、8月13日～8月14日にかけて「IOI 派遣直前合宿」を行った。主な内容は以下の通りである。

- 競技規則の再確認
- 受験上の基本事項の再確認
- プラクティスセッション問題に関する討論・解説
- 通信教育で扱った問題から、特に 4 問を選び、討論および解説

この直前合宿を実施した成果の 1 つとして、8月15日に実施されたプラクティスセッションは 2 時間と非常に短い時間であったにも関わらず、やるべきことを効率的に行えたことがあげられる。

8月14日

13時 (日本時間) 成田発の AZ787 便でミラノに向かう。

18:00 (現地時間, 以降帰国まで現地時間) ミラノマルペンサ空港に到着

ミラノ市内のホテルにて前泊のため, 空港バスでミラノ中央駅まで移動。バスの往復チケットは, 出発前にオンラインで購入済で, バス乗り場でチケットと引き替え。宿泊ホテルはバス降車場から徒歩3分。夕食はホテルで。

8月15日 Day 1

5:45 ロビーに集合し, チェックアウト

6:00 ホテルで朝食

6:40 空港行きバス発車

7:30 空港到着・チェックイン

9:15 AZ542 便でザグレブに向かう (定刻)

10:45 ザグレブ空港に到着 (定刻)

飛行機は座席3列の小さなプロペラ機。

11:15 入国審査後, ガイドの出迎えを受け, ラオ氏 (JST) とも合流

11:40 バスが宿泊施設へ向けて出発

12:20 宿舎にチェックイン・レジストレーション

ガイドの TARA (地元の高校生。ガイドのほとんどは高校生とのこと。) に案内され, 宿舎にチェックインし, Executive Director Šeparović 氏と面談し領収書を受け取り, 別のデスクでレジストレーションを行う。レジストレーション手順がガイドに周知されておらず, いくつかのデスクを行き来する。また, レジストレーション終了後, 担当者が昼食で不在のため, ID カードや T シャツなどの配給品をすぐには受け取れなかった。

この間, 韓国の団長 Jik Hyum Chang 氏, タイのオブザーバー Surin Phongsupasamit 氏と挨拶を交わす (両氏とも, IOI 2006 で面識を得る)。Phongsupasamit 氏より, IOI 2011 の開催国にタイが立候補していることを訊く。また, ラオ氏と Phongsupasamit 氏は, すでに生物オリンピックで面識があったとのこと。

14:00 昼食

IC のメンバーである Eljakim Schrijvers (オランダ, 通称 Kim) と挨拶を交わす。Kim は, IOI 2006 の際, いろいろと IOI のことを話をしてくれた。また, Kim は 2007 年 3 月に幕張で開催された the 2007 ACM-ICPC World Finals で 7 位になった Twente University

のコーチとして来日している。

15:30 選手と市内観光 (19:00 まで)

トラムで中心街まで移動。イエラチッチ総督広場からザグレブ駅まで散策。駅で両替し、その後、カフェで休憩。帰りのトラムを待つ際、フィンランド団長の Heikki Hyyrö 氏と出会う。

19:00 夕食

20:00 翻訳室 (Translation Room) で、印刷環境の確認を行う。(21:00 まで)

日本に割り振られた PC に日本語フォントをインストールし、念のため Windows update も行う。持ち込み PC を無線 LAN に接続するも途中から不調になる。実際の翻訳時には、持ち込み PC で作業を行い、印刷は割り当てられた PC より行った。

8月16日 Day 2

7:30 朝食。

朝食後、IOI President の Zide Du 氏 (China) を見かけ、昨年は一度も話をできなかった (しなかった) ので、挨拶をする。Du 氏は、昨年日本が金メダルを 2 個獲得したことを覚えていた。

8:00 試験会場に向かうため集合。

8:20 試験会場行きのバス出発。

8:30 Practice Session 開始。(10:30 まで)

選手は、各自用意してきた解答で操作感を確かめる。また、英和辞書や小さなマスコットを預ける。

韓国団長 Jik Hyum Chang 氏と会話。

フィンランド団長 Hyyrö 氏と会話。氏は、JST の補助で PD として九州大学 (受入れ教官：篠原歩氏) に滞在経験があるとのことである。

タイの団長 Paupiti Piamsa-Nga 氏 (IOI 2006 で面識) と挨拶をする。タイチームには 2 名の女性選手。

11:30 開会式

閉会式後、ステージ上で記念写真。

12:30 歓迎パーティ

歓迎パーティといっても、シャンパンに似せたアップルジュースが振る舞われただけであ

る。

中国の団長 Hang Wans 氏 (IOI 2006 で面識) と挨拶する。

オランダの団長 Ries Kock 氏と挨拶する。氏は、IOI 1995 オランダ大会の前後の期間 IC のメンバーで、昨年はオブザーバーとして参加。昨年の団長 Kim が選挙で IC のメンバーに選ばれたことに伴い、今年は団長に。昨年は、オランダの国内大会やトレーニングについて詳しく説明してくれた。

パーティ終了後、バスを待つ間 (上述のようにピストン輸送)、オーストラリアの団長 Benjamin Burton 氏 (通称 Ben) と挨拶する。昨年の IOI 2006 では、ビーチからの帰りのバスで隣の席になり、オーストラリアの事情を教えてもらった。今回は、APIO の話などを聞く。システムは Oracle を使って構築したとのこと。Ben から、副団長の Bernard Blackham 氏とゲストの Peter Taylor 氏を紹介される。Taylor 氏はオーストラリアで補助をしている団体の関係者らしく、ラオ氏を紹介。

13:50 送迎バス、会場を出発

14:15 昼食

14:30 GA1 (16:00 まで)

1. Welcome
2. The President of the IOI, prof. Zide Du and the Chairman of the IOI2007 Organising Committee Ivo Šeparović
3. The President of the IOI prof. Zide Du presents the GA chairman Tomislav Vujec 氏 (Red Hat) が紹介される。
4. Apologies for absence
5. Presentation and confirmation of GA meeting agenda
ほぼ提案通り承認された。
6. Appointment of scrutineers for voting in all GA meeting
今大会に参加している過去の Chairman of IOI で、団長でも副団長でもない者
7. Competition Rules and Regulations
Chairman of the Host Scientific Committee より、競技規則の改定案が提示され、議論の後、修正案が採択された。日本選手団役員の中には、小変更とはいえ、プラクティスセッション終了後に競技規則を変更するのは問題があるという意見も出たが、日本も賛成をした。
8. IC および ISC の立候補者公募
立候補締切りを 8 月 19 の総会直前までと提案され、承認された。

16:00 選手と面会

GA2 が開始されると隔離期間となり選手と連絡をとれなくなるので、この時間を利用して競技規則の小変更を選手に伝達。

18:00 GA2 (20:00 まで)

1. 8月17日に開催される IOI 2007 Conference の案内
2. 競技日1の課題提示

1つの課題に Major Objection が出されたものの、大きな改訂はなく、比較的スムーズに承認された。前年のメキシコ大会と比較すると問題文の完成度は高かった。ただし、典型的な問題が多いという印象を持った。(前年のメキシコ大会では、問題としての質は高く新しい傾向の問題が取り入れられるなど評価すべき点が多かったが、提示時点での問題文の完成度が低く、深夜まで問題文の確定しないという事態が生じた。)

20:30 夕食

21:00 翻訳開始

23:05 公式問題文(英語)最終確定

問題文が確定したことを受け、ゲームなどに興じていた翻訳をしなくても良い国の役員達が少なくなり始める。

3:00 翻訳完了

この時間まで残っているのは、日本や韓国など数カ国である。

3:30 開催国スタッフによる確認を受け、競技日1の問題文(日本語)が受理される。

8月17日 Day 3

7:30 役員起床

役員の朝食時間が7:30からのため、選手は7:30までに朝食を終えるよう6:30から朝食となっている。そのため、選手の起床は6:00頃。

8:10 朝食

朝食に向かう途中、バスに乗ろうとする日本選手と遭遇。お互い気まずい苦笑いをしながら挨拶もせずに擦れ違う。隔離が少し甘いのではという印象を持つ。また、試験開始は8:30であるのに、この時間にまだピストン輸送のパスが発売していないのは問題である。

8:30 競技1開始

役員は質問への対応のため9:30まで待機。この間、フィンランドの Hyyrö 氏やタイの Phongsupasamit 氏と歓談。ラオ氏はドイツ団長の Wolfgang Pohl 氏と情報交換していたようである。

10:00 IOI Conference 2007 (13:30 まで)

各国における中等教育における情報科学教育への取り組み，国内大会の運営，IOI へ派遣する選手の選抜・強化などについて，情報交換・議論するために IOI Conference が開催された．今年度初めて開催された会議で，次年度も同様に開催を計画している．

この日の聞いた発表は，以下の通りである．

発表 1

13:30 役員昼食

14:10 選手達が戻ってくる

競技 1 を終え，会場から宿舎に戻ってて昼食の列に並んでいる選手達と会う．選手達の手応えを聴取．

15:30 競技 1 結果配布

16:00 解析 (Analysis) (17:00 まで)

翻訳室の PC を使い，選手達は自分が提出した解答を再実行することで，得点を確認したり，復習したりした．各国 2 台ずつ使えるようになってきているが，すぐに来ない国もあるので，日本は 1 人 1 台使って解析を行った．

19:30 夕食

20:00 GA3 (20:30 まで)

1. 競技 1 結果解析

1 カ国からアピールが出されたが却下される．

20:30 歓談 (21:30 まで)

GA 終了後，歓談していると President の Du 氏が通りかかり，いろいろと話をする．単なる社交辞令と思われるが，盛んに日本に IOI 開催を勧める．個人的にはいつかやりたいと思うが，組織や財務の面でいますぐに立候補できる状況ではないことを説明．

8 月 18 日 Day 4

8:00 朝食

9:00 Juram 湖に向けてバス出発

Jurum 湖は宿舎からバスで 30 分くらいのところにある人工湖で，公園やボートなど水上競技の施設がある．夕方まで，ここで滞在し，球技やゲームなどを行う．この日は気温がそれほど高くなかったが，水着になり水遊びをしていた他の国の選手や役員もいた．

昼食はハンバーガーやピザをこの公園で食べた．

日本選手はベトナムチームと交流したり，バレーボールに参加したり，サッカー（フットサ

ル)でイタリアなどと対戦したりした。対戦後、イタリアのオブザーバ Luigi Laura 氏から日本語で挨拶をされる。(日本語がしゃべれるわけではない。)

チリ団長の Alexandre Velkov 氏と再会する。前年のメキシコ大会で日本チームとの記念写真が Newsletter に大きく掲載されたことが懐かしい。政府のサポートや初等教育における情報教育について情報交換した。Velkov 氏はスペイン語で話すため、ISC 議長の Cesar Cepeda 氏(メキシコ)が通訳を務めてくれた。

16:00 宿舎に到着

18:00 GA4

1. 規則，解釈，付則の改正
 2. 競技日 1 の結果に関して団長より提出された抗議について
 3. 競技日 2 の課題提示
- 競技日 1 同様大きな改訂はなくスムーズに承認された。

20:30 夕食

21:00 翻訳開始

3:30 翻訳終了

8月19日 Day 5

8月20日 Day 6

8月21日 Day 7

8月22日 Day 8

8月23日